

職業実践専門課程の基本情報について

学校名		設置認可年月日		校長名		所在地			
日本工学院専門学校		昭和51年7月1日		千葉 茂		〒144-8655 東京都大田区西蒲田5丁目23番22号 (電話) 03-3732-1111			
設置者名		設立認可年月日		代表者名		所在地			
学校法人 片柳学園		平成25年3月1日		片柳 鴻		〒144-8655 東京都大田区西蒲田5丁目23番22号 (電話) 03-6424-1111			
分野	認定課程名		認定学科名		専門士		高度専門士		
工業	工業専門課程		機械設計科		平成28年2月29日 文部科学省告示号外第19号		-		
学科の目的 企業等との密接な連携により、最新の実務の知識、技術、技能を身に付けることで、より実践的な職業教育の質を確保する。 実際の「ものづくり」(CAD設計実習、機械加工実習等)を通して機械設計の業界で求められるCADでの設計スキル (AutoCAD、CATIA)から3Dプリンター、モデリングマシンなどの加工機を使い先端技術である3D造形を体験的に学ぶことで、自動車、精密機械、電気・電子をはじめ、幅広い業界で活躍できる機械設計技術者を養成します。									
認定年月日 平成29年2月28日									
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	講義		演習	実習	実験	実技	
2年	昼間	1710時間	720時間		0時間	1170時間	0時間	0時間	
生徒総定員		生徒実員		留学生数(生徒実員の内)		専任教員数		兼任教員数	総教員数
80人		70人		19人		2人		3人	5人
学期制度	■前期:4月1日～9月30日 ■後期:10月1日～3月31日				成績評価				
長期休み	■学年始:4月1日～ ■夏季:7月31日～9月3日 ■冬季:12月23日～1月8日 ■学年末:3月17日～3月31日				卒業・進級条件				
学修支援等	■クラス担任制: 有 ■個別相談・指導等の対応 当日中に担任から電話・Eメール等で連絡することを基本とし、状況に応じて、数日続いた時点で保護者に連絡するなどの指導をしている。				課外活動				
就職等の状況※2	■主な就職先・業界等(平成28年度卒業生) 本田技術研究所、アビスト、ユニプレス、日本発条、三菱マテリアル、アルプス技研、マテリアル、師岡製作所等				主な学修成果(資格・検定等)※3				
	■就職指導内容 就職ガイダンス等において履歴書やエントリーシートの書き方の説明を実施。随時、個別面談を行う。 また就職模擬試験(筆記試験)と模擬面接を実施。								
	■卒業者数 34人								
	■就職希望者数 29人								
	■就職者数 29人								
	■就職率 100%								
	■卒業者に占める就職者の割合 85.3%								
■その他 ・進学者数: 0人									
(平成28年度卒業生に関する平成29年5月1日時点の情報)									
中途退学の現状	■中途退学者 2名 平成28年4月1日時点において、在学者73名(平成28年4月1日入学者を含む) 平成29年3月31日時点において、在学者71名(平成29年3月31日卒業生を含む) ■中途退学の主な理由 進路変更(就職・進学)、経済的理由、病気治療、成績不良 等				■中退率 2.7%				
経済的支援制度	■学校独自の奨学金・授業料等減免制度: 有 ※有の場合、制度内容を記入 片柳学園創立70周年記念奨学金 ■専門実践教育訓練給付: 給付対象・非給付対象 ※給付対象の場合、前年度の給付実績者数について任意記載								
第三者による学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: 無 ※有の場合、例えば以下について任意記載 (評価団体、受審年月、評価結果又は評価結果を掲載したホームページURL)								
当該学科のホームページURL	http://www.neec.ac.jp/department/technology/machine/								

(留意事項)

1. 公表年月日(※1)

最新の公表年月日です。なお、認定課程においては、認定後1か月以内に本様式を公表するとともに、認定の翌年度以降、毎年度7月末を基準日として最新の情報を反映した内容を公表することが求められています。初回認定の場合は、認定を受けた告示日以降の日付を記入し、前回公表年月日は空欄としてください

2. 就職等の状況(※2)

「就職率」及び「卒業者に占める就職者の割合」については、「文部科学省における専修学校卒業者の「就職率」の取扱いについて(通知)(25文科生第596号)」に留意し、それぞれ、「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」又は「学校基本調査」における定義に従います。

(1)「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」における「就職率」の定義について

①「就職率」については、就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者で除したものをいいます。

②「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者をいい、卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留年」「資格取得」などを希望する者を含みません。

③「就職者」とは、正規の職員(雇用契約期間が1年以上の非正規の職員として就職した者を含む)として最終的に就職した者(企業等から採用通知などが出された者)をいいます。

※「就職(内定)状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業年次に在籍している学生等とします。ただし、卒業の見込みのない者、休学中の者、留学生、聴講生、科目等履修生、研究生及び夜間部、医学科、歯学科、獣医学科、大学院、専攻科、別科の学生は除きます。

(2)「学校基本調査」における「卒業者に占める就職者の割合」の定義について

①「卒業者に占める就職者の割合」とは、全卒業者数のうち就職者総数の占める割合をいいます。

②「就職」とは給料、賞金、報酬その他経常的な収入を得る仕事に就くことをいいます。自家・自営業に就いた者は含めるが、家事手伝い、臨時的な仕事に就いた者は就職者とはしません(就職したが就職先が不明の者は就職者として扱う)。

(3)上記のほか、「就職者数(関連分野)」は、「学校基本調査」における「関連分野に就職した者」を記載します。また、「その他」の欄は、関連分野へのアルバイト者数や進

3. 主な学修成果(※3)

認定課程において取得目標とする資格・検定等状況について記載するものです。①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの、②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの、③その他(民間検定等)の種別区分とともに、名称、受験者数及び合格者数を記載します。自由記述欄には、各認定学科における代表的な学修成果(例えば、認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等)について記載します。

1.「専攻分野に関する企業、団体等（以下「企業等」という。）との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係			
(1)教育課程の編成（授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。）における企業等との連携に関する基本方針			
企業等と連携体制を確保して、授業科目の開設、その他の教育課程を編成する。そのため、校内の実習設備や施設等を活用し、派遣された講師による年間を通じた定期的な指導や評価を受ける体制をとることが可能な企業等をものづくり（機械設計）業界より選定している。			
(2)教育課程編成委員会等の位置付け 教育課程編成委員会は、学校長を委員長とし、副校長、学科責任者、教育・学生支援部員、学科から委嘱された業界団体及び企業関係者から各3名以上を委員として構成する。 本委員会は、産学連携による学科カリキュラム、本学生に対する講義科目および演習、実習、インターンシップおよび学内または学外研修、進級・卒業審査等に関する事項、自己点検・評価に関する事項、その他、企業・業界団体等が必要とする教育内容について審議する。			
(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿			
平成29年4月1日現在			
名 前	所 属	任期	種別
浅野 和人	大田工業連合会	平成29年4月1日～ 平成30年3月31日(1年)	①
松浦 貴之	株式会社 松浦製作所	平成29年4月1日～ 平成30年3月31日(1年)	③
荒井 香成	株式会社パソナテック	平成29年4月1日～ 平成30年3月31日(1年)	③
遠山 一明	日本工学院専門学校 副校長	平成29年4月1日～ 平成30年3月31日(1年)	
川村 公二	日本工学院専門学校 機械設計科 学科長	平成29年4月1日～ 平成30年3月31日(1年)	
斎藤 雅典	日本工学院専門学校 機械設計科 教員	平成29年4月1日～ 平成30年3月31日(1年)	
岡崎 誠	日本工学院専門学校 機械設計科 教員	平成29年4月1日～ 平成30年3月31日(1年)	
只埜 洋樹	日本工学院専門学校 教育・学生支援部 次長	平成29年4月1日～ 平成30年3月31日(1年)	
※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。 ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員（1企業や関係施設の役職員は該当しません。） ②学会や学術機関等の有識者 ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員			
(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期			
年2回開催 (開催日時) 第1回 平成29年3月03日 14:00～16:00 第2回 平成29年8月30日 14:00～16:00 次回 平成30年3月(予定)			
(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況 企業等との連携により、CAD利用技術者試験や職業で必要となる最新の知識、技術、技能等を反映するため、企業等を含む教育課程編成委員会において、企業等からの意見や提案を吸収し、試験に必須となる設計製図や図学・基礎デザイン、CAD実習等でカリキュラム改善等の教育課程編成を定期的に実施している。さらに評価項目の見直しや教育設計図の達成目標等の再検討を行い、次年度の授業に反映させている。			
2.「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習（以下「実習・演習等」という。）の授業を行っていること。」関係			
(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針 企業等との打ち合わせにより、社会や企業等のニーズに沿った実習内容や評価方法を設定し、目標を明確にする。企業等からの派遣講師による実践的な実習・演習を実施後、企業等の派遣講師による評価に基づき、教員が成績評価・単位認定を行う。			
(2)実習・演習等における企業等との連携内容 CADシステム（CAD設計実習1等）の実習は、株式会社アイブイエフにおいて実際の機械設計業務で作成した図面を参考に、その内容を段階的に理解できるような授業カリキュラムを作成。授業と学生評価を株式会社アイブイエフと協議しながら行った。機械加工に関する基本的内容を含む課題を有限会社エムズクラフトと協議し、授業カリキュラムを作成。加工図面の見方の指導及び実際の加工に関しての実技指導の実施を行った。課題の成果物、受講態度等を協議の上、学生評価を行った。また、次年度のカリキュラム改善のため、課題の成果物の評価及び学生指導等に関しての意見の交換を行った。			
(3)具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。			
科 目 名	科 目 概 要	連 携 企 業 等	
CAD設計実習1	CADシステムを活用した図面の書き方や設計法を学びます	株式会社アイブイエフ	
機械加工実習1	与えられた課題の完成を目指して、加工図面を基に機械加工の作業をしたり、加工に付随する様々な作業を体験します。	有限会社エムズクラフト	

3.「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係			
(1)推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針			
講義と実習、演習の精度を高めるため、学科関連企業の協力のもと、企業等連携研修に関する規定における目的に沿い、学科の内容や教員のスキルに合わせた最新の技術力と技能、人間力を修得する。また、学校全体の教員研修を実施することにより、学生指導力の向上を図り、次年度へのカリキュラムや学科運営に反映させる。			
(2)研修等の実績			
①専攻分野における実務に関する研修等			
平成28年7月11日 大田区企業3社(シナノ産業、松原製作所、新妻精機)工場見学及び技術講習			
平成28年11月21日 JIMTOF2016 展示会見学			
平成29年1月25日 大田区企業(エビナ電化工業株式会社)工場見学及び技術講習			
平成29年3月1日 大田区企業(株式会社上島熱処理工業所)工場見学及び技術指導			
平成29年7月27日 大田区企業3社(シナノ産業、松原製作所、新妻精機)工場見学及び技術講習			
②指導力の修得・向上のための研修等			
講演会、模擬授業やアクティブラーニング等の研修を実施し、指導力の向上を図った。			
平成28年3月29日実施【第1部】「専門学校をめぐる社会的動向」／【第2部】各テーマにおけるグループディスカッション及び発表			
平成28年3月30日実施【第1部】夜回り先生 水谷修氏による特別講演／【第2部】専任・非常勤講師研修会			
平成28年8月2日 非常勤講師 渡邊秀樹氏によるアクティブラーニングについての講演とテーマ「MARS Project II」(火星における6か月間のライフプラン作成)についてのグループ討議及び発表。			
平成29年3月29日10:00～12:00 (株)KEIアドバンス様による非認知スキルの測定と現在の学生状況についての講演。			
平成30年度に向けてPROGテストの試験的導入なども検討し、教員に関しても受験を勧め現状把握に努めた。			
(3)研修等の計画			
①専攻分野における実務に関する研修等			
平成29年11月29日 株式会社丹青TDC 企業見学及び技術講習			
平成30年3月 大田区企業(株式会社上島熱処理工業所)工場見学及び技術指導			
②指導力の修得・向上のための研修等			
平成29年8月 予定			
①テーマ:参加者の視点に立った効果的なプレゼンテーション			
②テーマ:学生を引きつける効果的な授業			
心理カウンセラー等を講師に招き、教育方法等の改善を図る。			
平成30年3月 予定			
4.「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係			
(1)学校関係者評価の基本方針			
教員からの一方向的な講義で知識を覚えるのではなく、学生たちが主体的に参加、仲間と深く考えながら課題を解決する力を養うのを目的としたグループワークなどを実施した方が良いと意見を受け、教員研修の実施や実習などを計画から実施するまでをグループで一貫して行い、今後の学生指導、カリキュラムの設定に反映させる。			
(2)「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応			
ガイドラインの評価項目		学校が設定する評価項目	
(1)教育理念・目標		(1)教育理念・目標	
(2)学校運営		(2)学校運営	
(3)教育活動		(3)教育活動	
(4)学修成果		(4)学修成果	
(5)学生支援		(5)学生支援	
(6)教育環境		(6)教育環境	
(7)学生の受入れ募集		(7)学生の受入れ募集	
(8)財務		(8)財務	
(9)法令等の遵守		(9)法令等の遵守	
(10)社会貢献・地域貢献		(10)社会貢献・地域貢献	
(11)国際交流			
※(10)及び(11)については任意記載。			
(3)学校関係者評価結果の活用状況			
教員からの一方向的な講義で知識を覚えるのではなく、学生たちが主体的に参加、仲間と深く考えながら課題を解決する力を養うのを目的としたグループワークなどを実施した方が良いと意見を受け、教員研修の実施や実習などを計画から実施するまでをグループで一貫して行い、今後の学生指導、カリキュラムの設定に反映させる。			
(4)学校関係者評価委員会の全委員の名簿			
平成29年4月1日現在			
名 前	所 属	任期	種別
桂田 忠明	セントラル電子制御株式会社 代表取締役	平成29年4月1日～ 平成30年3月31日(1年)	IT企業等委員 /卒業生委員
正木 英治	株式会社マックス 専務取締役	平成29年4月1日～ 平成30年3月31日(1年)	地域関連/ 会計専門委員
工藤 俊一郎	公益財団法人 放送番組センター 顧問	平成29年4月1日～ 平成30年3月31日(1年)	クリエイターズ企業等委員/ 卒業生委員
小澤 賢侍	CG-ARTS協会(公益財団法人 画像情報教育振興協会) 教育事業部教育推進グループセクションチーフ	平成29年4月1日～ 平成30年3月31日(1年)	クリエイターズ/ デザイン企業等委員
浅野 和人	一般社団法人 大田工業連合会 事務局長	平成29年4月1日～ 平成30年3月31日(1年)	テクノロジー企業等委員
今泉 裕人	一般社団法人コンサートプロモーターズ協会 事務局長	平成29年4月1日～ 平成30年3月31日(1年)	ミュージック企業等委員
須賀 寛光	学校法人上野塾 東京実業高等学校 キャリアセンター長 進路指導副部長	平成29年4月1日～ 平成30年3月31日(1年)	学校関連
※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。 (例)企業等委員、PTA、卒業生等			
(5)学校関係者評価結果の公表方法・公表時期 (ホームページ・広報誌等の刊行物・その他()) URL: http://www.neec.ac.jp/common/pdf/announcement/23390/28_jikohyouka_neec.pdf http://www.neec.ac.jp/common/pdf/announcement/23390/29_kankeishahyouka_neec.pdf			

5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係	
(1)企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針	
教育目標や教育活動の計画、実績等について、企業や学生とその保護者に対し、必要な情報を提供して十分な説明を行うことにより、学校の指導方針や課題への対応方策等に関し、企業と教職員と学生や保護者との共通理解が深まり、学校が抱える課題・問題等に関する事項についても信頼関係を強めることにつながる。 また、私立学校の定めに基づき「財産目録」「貸借対照表」「収支計算書」「事業報告書」「監事による監査報告」の情報公開を実施している。公開に関する事務は、法人経理部において取扱い、「学校法人片柳学園 財務情報に関する書類閲覧内規」に基づいた運用を実施している。	
(2)「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応	
ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1)学校の概要、目標及び計画	学校の現況、理念・目的・育成人材像、事業計画
(2)各学科等の教育	目標の設定、教育方法・評価等、教員名簿
(3)教職員	教員・教員組織
(4)キャリア教育・実践的職業教育	就職等進路、学外実習・インターンシップ等
(5)様々な教育活動・教育環境	施設・設備等
(6)学生の生活支援	中途退学への対応、学生相談
(7)学生納付金・修学支援	学生生活、学納金
(8)学校の財務	財務基盤、資金収支計算書、事業活動収支計算書
(9)学校評価	学校評価
(10)国際連携の状況	学校の現況、理念・目的・育成人材像、事業計画
(11)その他	目標の設定、教育方法・評価等、教員名簿
※(10)及び(11)については任意記載。	
(3)情報提供方法	
URL:	
http://www.neec.ac.jp/common/pdf/announcement/23390/29_opendata_neec.pdf	

授業科目等の概要

(工業専門課程 機械設計科) 平成29年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当 年次・学 期	授 業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			ビジネススキル	就職活動に備え、ビジネスマナーを身につけます。身だしなみ、挨拶、言葉づかい等を再確認し修正します。社会人として必要な礼儀作法を学び、ビジネス能力検定3級取得をめざします。	1・前	30	2	○			○		○		
○			キャリアデザイン1	論理的思考と論理的文章の作成、コミュニケーションやディベートなどの訓練をします。自分の適正を理解し、企業調査の方向付けのヒントを得たり、一般常識問題を解く練習を行います。	1・後	30	2	○			○		○	○	
	○		スポーツ実習1	スポーツを通じ身体を鍛え人間力を高めます。長期休業期間中に集中授業としてスキー、スノーボード教室などを実施します。	1・後	30	1			○		○		○	
○			機械の設計	機械設計の流れ、考慮すべきポイント、図面との関係を学びます。	1・後	60	4	○			○		○		
○			工業デザイン	デッサンやテクニカルイラストを通して図形を理解し、投影図法や機械製図法につながる知識を得ます。	1・前	30	2	○			○		○		
○			工業力学1	機械構造に必要な力のバランスを理解するため、力の合成など力に関係する要素について学びます。	1・前	30	2	○			○		○		
○			工業力学2		1・後	30	2	○			○		○		
○			力学の活用基礎	一つの構造体を例に取り、外力に対して各部材の内力を求める手段を理解します。	1・後	30	2	○			○		○		
○			機械材料の加工	機械材料として用いられる材料の特徴を学び、その加工方法を勉強します。切削加工方法のみならず熱処理方法など、金属として必要な知識を得ます。	1・前	60	4	○			○		○		
○			工業数学1	四則計算、文字式、方程式の解き方など力学の計算に必要な数学的手法を学びます。	1・前	30	2	○			○		○		
	○		工業数学2		1・後	30	2	○			○		○		
	○		検定対策講座1	CAD利用技術者試験などの検定試験合格を目指します。	1・通	30	2	○			○		○		
	○		検定対策講座2		1・通	30	2	○			○		○		

○		CAD設計実習 1	CADシステムを活用した図面の書き方やCADシステムを活用した設計法を学びます。	1・前	90	3			○	○		○	○	○
○		CAD設計実習 2		1・後	90	3			○	○		○	○	
○		ものづくり基 礎実習1	ものづくりに必要な、さまざまな道具の使い方を実習形式で学びます。機械加工の基礎や計測機器の使い方などを学びます。	1・前	90	3			○	○		○		
○		ものづくり基 礎実習2		1・後	90	3			○	○		○		
○		機械加工実習 1	与えられた課題の完成を目指して、加工図面を基に機械加工の作業をしたり、加工に付随する様々な作業を体験します。	1・前	60	2			○	○			○	○
○		機械加工実習 2		1・後	60	2			○	○			○	
○		キャリアデザ イン2	ビジネスの現場で必要となる、スケジュール管理や情報活用術、事例研究などを通じ、行動・人間関係の構築術などを学びます。就職内定先に将来必要と思われる資格取得に向けての勉強を行います。	2・前	30	2	○			○			○	
	○	スポーツ実習 2	スポーツを通じ身体を鍛え人間力を高めます。長期休業期間中に集中授業としてスキー、スノーボード教室などを実施します。	2・後	30	1			○		○		○	
○		機械の要素設 計	歯車など多くの機械要素を取り上げて、力関係を解析したり、機能を学びます。規格表を理解し使えるように勉強します。	2・後	60	4	○			○		○		
○		機械の製図	機械部品図や組立図を作成し、製図法の理解を深め、図面を読む能力を身に付けます。	2・前	60	2			○	○		○		
○		ものづくりの 力学	構造体に関わる力学的関係の解法を学びます。設計計算書作成に必要な知識や術を得ます。	2・前	30	2	○			○		○		
○		力学の活用実 践	各自が考えた構造体に対して、設計計算書を作成します。	2・後	60	4	○			○		○		
○		メカトロニク ス	機械の自動化技術であるコンピュータ制御やデジタル回路を学び、機械システムに必要な技術であることを知ります。	2・後	30	2	○			○		○		
○		生産の仕組み	生産の歴史から学びます。生産に関する流れを理解し、生産活動に必要な知識を得ます。	2・前	30	2	○			○		○		
	○	ものづくりの 数学	構造体の力学解析をするために必要な数学的高等手段を学びます。微分積分を学ぶことで力学解析がより理解しやすくなるでしょう。	2・前	30	2	○			○		○		
	○	検定対策講座 3	CAD利用技術者試験などの検定試験合格を目指します。	2・通	30	2	○			○		○		
○		CAD設計実習 3	CADシステムを実践的に活用し、設計演習を行います。	2・前	90	3			○	○		○	○	
○		CAD設計実習 4	CADシステムを実践的に活用し、卒業製作作品の設計に取り組みます。	2・後	90	3			○	○		○	○	

○		高度加工実習 1	高度な機械加工機を使えるための作業を繰り返して行います。その他、加工に必要な様々な技術を学びます。	2・前	90	3			○	○			○	
○		高度加工実習 2	卒業制作に必要な部品の加工プロセスを作成しそれを基に、機械加工機などを使用して部品の完成を目指します。その他、加工に必要な様々な技術を学びます。	2・後	90	3			○	○			○	
	○	インターン シップ	企業で就業体験することで、仕事への取り組み方や考え方を学びます。作業現場での人間関係なども体験します。	2・後	30	1			○		○		○	
○		卒業製作	指導担当教員のテーマに集まり、設計手順を経て設計計算書、図面、部品加工、組立作業までを一貫して行い、製品を卒業制作展に出展します。	2・通	180	6		△	○	○		○	○	
合計			35 科目	1890 単位時間(87 単位)										

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
卒業時に必修科目1,650時間(74単位)、選択科目60時間(2単位)合計1,710時間(76単位)取得すること。		1 学年の学期区分	2 期
		1 学期の授業期間	15 週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。